

第1回下関市慣行策定委員会 議事概要

日 時	平成23年 8月 9日 (水) 10:00～11:30
場 所	下関市役所議会棟 第1委員会室
出席者	下関市慣行策定委員会委員 9名 (欠席1名) 事務局 (総合政策部、オブザーバーとして産業経済部)

1. 開会 (事務局)

2. 委嘱状交付

中尾市長より、各委員に委嘱状を手交。

3. 市長挨拶

中尾市長より挨拶。

4. 会長・副会長の選任

会長は、鷺尾委員 (独立行政法人水産大学校理事長) が選出された。

副会長は、和仁委員 (西日本食文化研究会主宰) が選出された。

5. 会長・副会長の挨拶

鷺尾会長・和仁副会長が、就任にあたり挨拶を行った。

6. 諮問

中尾市長より鷺尾会長に、下関市慣行の追加制定について諮問。

(中尾市長はその後退席)

7. 各委員自己紹介

8. 下関市慣行「市の動物 (クジラ)」の追加制定について

事務局より、配布資料 (1～3) に基づき説明があった。

9. 質疑応答

(副会長)

パブリックコメントに対する市の意見のフィードバックはどうなっているか。

(事務局)

ホームページで公開している。

(会長)

「くじらのまち日本一」を目指すというが、何を比較して日本一なのか。

(事務局)

定量的な比較は困難だが、慣行追加制定による市民意識の盛り上がり、食文化や観光面、IWC等クジラの持続的利用を図る取組み、クジラとの歴史的ゆかりや新たな取組みなどより、他都市と比較して取組みが大きいという意味をもって目指したい。

(A委員)

第二十五利丸に乗船して見学できるようにしてもらいたい。

(B委員)

くじら関係の資料を一般的に見学できる施設・場所が必要。

(C委員)

慣行制定と平行して、くじらPRに必要な事業を予算化して行っていただきたい。

(D委員)

「食文化」「食育」という観点も盛り込んでほしい。地域全体でクジラ・命を大切にしてきた食文化の歴史を伝えていくことが最も大切。

(B委員)

長門市には鯨墓があり、クジラの命を大切にしてきた歴史を発信している。食文化も決して悪いものではない。そのことを広く知っていただく必要あり。

(副会長)

慣行に制定する動物は単一な種であることが多い。「クジラ」は種として広く、「食べてもいいクジラ」「保護すべきクジラ」の多面性がある。大型鯨類の保護とスナメリの保護の観点は異なる。資源の保護と種の保護の両方に取り組む必要あり。

鯨類の保護の観点でも、下関市は良い取組みをしている。日本がクジラの多様性と総合的な保護に貢献しており、下関市がその先頭に立って日本を引っ張っていくという観点からの慣行制定だということを明確にしたほうがいい。

(事務局)

資料でお示ししている事業は一部で、蔚山くじら祭や鯨フォーラムへの参加、くじらサマースクール開催、下関くじら料理コンクールへの協力、鯨肉給食の実施回数増、長門市とのくじら文化交流事業、地産地消の取組み（食べり〜ね！下関）、普及啓発キャンペーンの拡大など、他にもくじら文化発信事業に取り組んでいる。

(副会長)

「日本一」の件だが、一昨年調査したところ、クジラ料理を提供している飲食店の割合は日本一。クジラを販売しているスーパーマーケットの店舗数も日本一だろう。

(E委員)

自分の世代から若い世代はクジラから離れた世代で、下関に住んでいてもクジラが遠い存在になった。

前向きに取り組むを進めてほしいが、観光の目玉を色々と旗揚げすることで、分散してしまう危惧もある。

(F委員)

下関に本当にクジラ（スナメリ）がいることを含めて、過去も現在も併せて発信していけたら、本当に日本一になると思う。

(G委員)

山地出身なので「動物」と言えば「シカ」の感覚だが、話を伺っていると自分たちもクジラを食べていたし、愛着を感じる。PRの1つとして必要な制定では。

(D委員)

くじら食文化を伝えていく必要あり。ぜひ発信していただきたい。

(C委員)

早くに委員会を開催し、それからアンケート等を行うべきではなかったか。

また、事業予算化もしっかり行わないといけない。

(副市長)

施策化等については、来年度に向けての予算審議の中でしっかり取り組んでいきたい。

手順の部分で不備があったかと思うが、市としても強い思いがある事業なのでよろしくお願ひしたい。

(会長)

アンケート調査数も少なく、市民を挙げて市の慣行にするということであれば、もっと議論を積み重ねる必要があった。市内には多くの団体・事業活動があり、それらが一堂に会して、多面性のある文化として市がクジラを担ぐという声が出てからであれば、より慣行に制定しやすかった。

今回の議論の中でも多様な視点があるので、慣行制定後も、施策化の過程での議会や、市民参画の中で議論を深めていく必要がある。

(G委員)

「市の花」や「市の木」も同じだと思うが、単純な思いとして「市の動物」＝クジラでいいのではないだろうか。

今後はそのような施策の展開を。

(B委員)

海響館におけるシロナガスクジラの骨格標本展示やくじら関連のものがたくさんある下関をPRしていきたい。

(会長)

委員会として賛否は賛成ということでよいか。

(C委員)

賛成だが、もっと市民を巻き込んでいくべき。

(事務局)

慣行になれば、より「くじら日本一」を目指す施策を打つことも可能になっていくだろう。手続きに先走った面があったかもしれないが、「名」にふさわしい「実」を実施できればと考えている。

(会長)

フクが日本一なのはなぜか。それは、「質」が日本一だから。文化的、質的な使い方の日本一を目指してほしい。

諮問に対しては基本的に異論はないが、附帯意見を付ける形での答申でよいか。

(委員)

「異議なし」と回答

(会長)

答申の文面については、会長・副会長に一任していただけるか。

(委員)

「異議なし」と回答

(会長)

副会長と協議の上、後日市長に答申を行う。今月中には答申を行いたい。

(副市長)

ありがとうございました。市民の皆様への機運の醸成や施策化に取り組み、名実ともに「くじらのまち日本一」を目指したいので、お力添えをよろしくお願ひする。

11. 閉会（事務局）

以 上